

(2019年度)

4 日本史問題 (60分)

(この問題冊子は19ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 試験監督者の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 試験開始前に，試験監督者から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し，所定の欄に氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机上に置くこと。
3. 試験監督者から試験開始の指示があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
4. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能を使用してはならない。また，スマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
5. 解答は，解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。
6. マークをするとき，マーク欄からはみ出したり，白い部分を残したり，文字や番号，○や×をつけたりしてはならない。また，マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
7. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
8. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。
9. 試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
11. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の問題文は、日本における古代王権の誕生と王位継承のあり方について、通史的に述べたものである。よく読んで、以下の問いに答えなさい。

卑弥呼のもと、日本列島内の諸国を従えたい邪馬台国は、地方統治機構を備えた一定の統一政権のように見受けられるが、^(a)魏の正史以降の記録は明確ではなく、列島内の史資料からもその実像を掴むことは難しい。しかし近年になって、奈良県の纏向遺跡がその遺構である、との見方が強まってきた。同遺跡内に位置する最初期の前方後円墳、^(b)(ア)は、全長280メートルの規模を持ち、以降の大王墓の基準となる規格を備えていた。ヤマト王権と同盟関係を結び、またその傘下に入った地方豪族は、その数分の1の規模の前方後円墳を造営し、古墳の大きさで王権との関係、政治的地位が分かる較差社会が構築されていった。古墳時代の中期には、^(c)河内平野に、多くの中小規模の円墳や方墳を従えた巨大前方後円墳が出現する。これらは宮内庁によって、応神天皇陵、仁徳天皇陵に比定されているが、^(d)実際にこれらの人物の陵墓なのかどうかは定かではない。

中国の文書史料、日本列島から出土した考古資料と文字史料から同一人物として確定できる初めての大王が、『宋書』に載る倭王(イ)、『古事記』『日本書紀』に載る(ウ)天皇、「江田船山古墳出土鉄刀銘」「稲荷山古墳出土鉄剣銘」に載る(エ)大王である。これを起点に、倭の五王として(イ)より前に名前のある讚・珍・済・興を、『古事記』『日本書紀』の系譜の誰に当てるかが議論されてきたが、しかし『宋書』は珍・済の血縁関係を記しておらず、『古事記』『日本書紀』の系譜自体が多くの虚構を含むものなので、彼我の文献の記載を安易に結びつけることはできない。

『古事記』『日本書紀』の系譜のうち、飛鳥時代以降の王朝の始祖として位置づけられるのは(オ)天皇だが、その治世から次代にかけて、筑紫や武蔵で国造層の反乱が起きている。前者は筑紫の豪族に新羅が働きかけ、同国を征討するために派遣された近江毛野の軍を妨害するよう仕向けたもので、後者は、地域の有力豪族の勢力争いに王権が介入したものである。これらの動きは、「武烈」と諡号が奉られた大王に後継者がおらず、「応神天皇五世孫」の(オ)が擁立されたことと無関係ではなく、王位継承をめぐる政治的混乱によって生じた事件ではないか

という意見もある。(オ)の没年と欽明の即位年は諸史料の間で混乱があり、『古事記』『日本書紀』の系譜上は、その間、(カ)(キ)という天皇が連続して即位しているにもかかわらず、欽明の即位年が(オ)の没年を遡ってしまう場合も生じるのである。それは、「万世一系」の虚構性に関わる問題かもしれない。^(e)

なおこの時期から、史料上には、「〇〇大兄」という人名がみられるようになる。大兄とは、母を同じくする王子集団の長子が持つ称号と推測されている。^(f)「〇〇大兄」は、王権の業務を分担する家政機関、王子宮を運営することを許された存在として、次代の大王位継承者とみなされた。すなわち大兄制とは、大王位継承が実力行使により達成される過程で紛争が生じ、王権全体が危機に瀕することを防ぐために、同世代における継承の順序を定めたものと考えられるのである。しかし実際には、同世代内に複数の大兄が存在してしまい、それらへ豪族たちが結集して政治勢力をなし、競合・対立する状況が作られてしまった。上宮王家の(ク)は、蘇我氏の血を引く「大兄」でありながら、その称号を持たない田村皇子との皇位継承争いに敗れ、彼を推戴した有力者らが朝廷内で孤立し、死に至るといふ混乱を招いた。この動揺は、やがて大化改新のクーデターを引き起こす契機となるが、このときに主要な役割を果たした中大兄は、同じ舒明天皇の子である(ケ)、孝徳天皇の子である有間皇子らを、競合勢力として排除している。そして、古代最大の内乱ともいふべき(コ)においては、天智天皇の実子である大友皇子と、実弟である大海人皇子とが戦った。こうした混乱を避ける最良の手段として、前大王が後継者を1人に絞る(サ)制度は、大王の群臣に対する優位が隔絶的でなければ成立しえず、ゆえに天武～持統朝に始まると考えてよい。^(g)逆にそれ以前の王朝においては、大王位継承は、群臣の承認と推戴が必要不可欠とされたのである。蘇我馬子が(シ)天皇を謀殺した事件は、以降の天皇制の歴史上極めて異例であるが、『日本書紀』において、馬子が他の王族からも群臣からも非難されていないのは、当時の大王位の実態を逆説的に示していると思われる。

奈良時代の皇統は、律令制の整備や史書の編纂に尽力した(ス)が、持統天皇の意向を受け、天武・天智双方の血が融合した最初の(サ)である、(セ)の子供たちが継承する形に統一されていった。初めて女性として

(サ)に立ち、即位した孝謙天皇の際には多少の政治的混乱が生じており、皇位継承資格者の限定がかえって紛争を生じる危険性もみえてきた。(サ)を置かなかった称徳天皇(孝謙天皇が重祚した女帝)は、僧侶の(ソ)を即位させようとした節があるが、崩御直後の紆余曲折を経て、当時、皇室の長老であり大納言の官職にもあった白壁王が即位し、(タ)天皇となる。そのあとを受けた山部親王は、即位して(チ)天皇となり、平安時代に続く新たな王朝の基礎を築いてゆくのである。

万世一系は、いうなればひとつの神話であるが、その実像を追究してゆくことで、王と群臣たちとの関係がどうであったか、王権の確立過程がいかなるものであったかを確認することができるのである。

問1 文中の空欄(ア)～(チ)に当てはまる最も適切な語句を、以下の語群から1つずつ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| ① 安閑 | ② 石舞台古墳 | ③ 乙巳の変 |
| ④ 大兄皇子 | ⑤ 大津皇子 | ⑥ 桓武 |
| ⑦ 草壁皇子 | ⑧ 行基 | ⑨ 黒塚古墳 |
| ⑩ 継体 | ⑪ 好太王 | ⑫ 光仁 |
| ⑬ 皇太子 | ⑭ 斉明 | ⑮ 嵯峨 |
| ⑯ 称制 | ⑰ 仗刀人 | ⑱ 壬申の乱 |
| ⑲ 推古 | ⑳ 帥升 | ㉑ 崇峻 |
| ㉒ 摂政 | ㉓ 宣化 | ㉔ 蘇我入鹿 |
| ㉕ 蘇我石川麻呂 | ㉖ 太政大臣 | ㉗ 高市皇子 |
| ㉘ 太上天皇 | ㉙ 丁未の役 | ㉚ 道鏡 |
| ㉛ 中臣鎌足 | ㉜ 白村江の戦い | ㉝ 箸墓古墳 |
| ㉞ 武 | ㉟ 藤原不比等 | ㊱ 藤原武智麻呂 |
| ㊲ 古人大兄 | ㊳ 平城 | ㊴ 彌 |
| ㊵ 山背大兄 | ㊶ 日本武尊 | ㊷ 用明 |
| ㊸ 良弁 | ㊹ ワカタケル | ㊺ 雄略 |

問2 下線部(a)について。魏の正史が、卑弥呼の死について記した文章は次のうちどれか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。なお、史料の表記は適宜改めてある。

- ① 桓霊の間、倭国大いに乱れ、^{こもこも}更相攻伐して歴年主なし。
- ② 其の国、本亦^{また}男子を以て王となす。^{とど}住ること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐して年を^へ歴たり。乃ち共に一女子を立てて王と為す。
- ③ 大いに^{つか}冢を作る。径百余歩、徇葬する者、奴婢百余人。更に男王を立てしも、國中服せず。^{こもこも}更々相誅殺し、当時千余人を殺す。
- ④ 乃ち大市に葬る。……(中略)是の墓は、日にや人作り、夜にや神作り、故に大坂山の石を運びて造る。

問3 下線部(b)について。この遺跡に関する説明として、正しいものはどれか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 佐賀県神埼郡にある、日本屈指の大環濠集落。弥生前期～後期の長期間に存続し、墳丘墓の築造や物見櫓の設置もあった。
- ② 奈良県桜井市の三輪山西麓に広がる、3～4世紀の巨大遺跡。九州～関東の各地から搬入された土器が多数出土、中心部からは、当時国内最大級の掘立柱建物が発見された。
- ③ 奈良県磯城郡田原本町にある、弥生前期～後期にかけての遺跡で、日本最大級の環濠集落。高床式建物群も出土し、楼閣の絵が描かれた線刻土器も出土した。
- ④ 島根県出雲市斐川町の丘陵に位置。358本の中細形銅剣、16本の銅矛、6個の銅鐸を出土した。3種類の青銅器祭器がまとまって埋納されていたことは、それまでの青銅器の製作・分布・使用に関する学説に問題を提起した。

問4 下線部(c)について。ここで言及されている巨大古墳と古墳群の組み合わせとして、正しいものはどれか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 作山古墳 — 総社古墳群
- ② 女狭穂塚古墳 — 西都原古墳群
- ③ ミサンザイ古墳 — 百舌鳥古墳群
- ④ 誉田御廟山古墳 — 古市古墳群

問5 下線部(d)について。このような齟齬は、宮内庁による陵墓・陵墓参考地の設定と、現在の学問的見解が異なるからである。宮内庁は、『古事記』『日本書紀』のほか、奉幣の必要がある陵墓を列举した『延喜式』を参照し設定を行ったが、同書についての正しい説明文はどれか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 40巻。藤原冬嗣らが、701～819年に及ぶ条文を官庁ごとに類別し、利用しやすいように編纂したもの。弘仁11年(820)に成立。
- ② 20巻。藤原氏宗らが、前代の同種の編纂物の補遺として、変更・新設の条文のみ採録したもの。貞観13年(871)に成立。
- ③ 50巻。藤原忠平が、先行する条文を併合、取捨・改訂して延長5年(927)に完成した。
- ④ 20巻もしくは12巻。弘仁～貞観に至る三代の格・式を内容に従って分類し、11世紀頃に成立した。

問6 下線部(e)について。『古事記』や『日本書紀』には、神武天皇から連綿と一系の王統が持続してきたように記されている。それは半ば虚構であるが、欽明天皇の頃から開始された修史事業に基づくと考えられている。『古事記』『日本書紀』の原史料となった欽明朝の史書のうち、大王の系譜について記していたと考えられるものは何か。次から1つ選んで、記号で答えなさい。

- ① 「帝紀」
- ② 「旧辞」
- ③ 『天皇記』
- ④ 『国記』

問7 下線部(f)について。6世紀末～7世紀前半に活躍したある人物は、宮を経営する大王の長子であり、朝廷の政治に参画していたにもかかわらず、『日本書紀』には「大兄」ではなく、当時は存在しなかったと考えられる、別の称号で記されている。次のうち、その人物の名前と称号の組み合わせとして、正しいものはどれか。最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 炊屋姫 — 大后 ② 穴穂部王 — 皇太弟
③ 厩戸王 — 皇太子 ④ 田村王 — 皇子

問8 下線部(g)について、次の各問に答えなさい。

(1) 天武～持統朝に整えられた(サ)の制度が、依拠していたと考えられる法令は何か。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

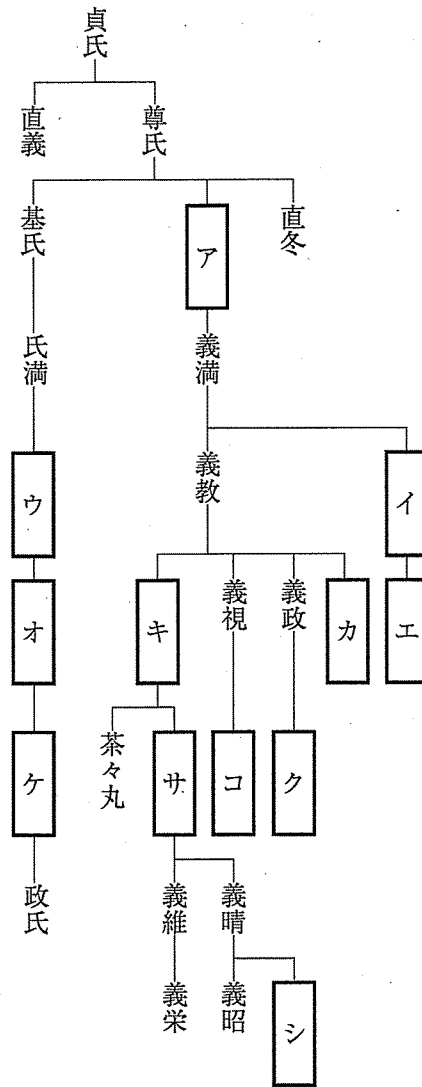
- ① 憲法十七条 ② 近江令 ③ 飛鳥浄御原令 ④ 大宝令

(2) やはり天武～持統朝から始まったと考えられている行事で、天皇が即位後初めて挙行する秋の収穫祭を何というか。次から最も適切なものを1つ選び、記号で答えなさい。

- ① 祈年祭 ② 新嘗祭 ③ 大嘗祭 ④ 朝賀

2 次の足利氏系図をみて、あとの問いに答えなさい。

【足利氏系図】



問1 神護寺に所蔵されている国宝「伝源頼朝像」・「伝平重盛像」は、鎌倉時代の似絵の傑作とされてきたが、1995年以降、美術史家の米倉迪夫氏や歴史家の黒田日出男氏らにより、どちらも14世紀中頃の作品で、描かれている像主は足利家の人物であるという新説が提唱されている。次の中から、この新説による、「伝源頼朝像」・「伝平重盛像」の像主の正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- ① 伝源頼朝像 = 足利尊氏像 ・ 伝平重盛像 = 足利直義像
- ② 伝源頼朝像 = 足利尊氏像 ・ 伝平重盛像 = 足利直冬像
- ③ 伝源頼朝像 = 足利直義像 ・ 伝平重盛像 = 足利直冬像
- ④ 伝源頼朝像 = 足利直義像 ・ 伝平重盛像 = 足利尊氏像
- ⑤ 伝源頼朝像 = 足利直冬像 ・ 伝平重盛像 = 足利直義像
- ⑥ 伝源頼朝像 = 足利直冬像 ・ 伝平重盛像 = 足利尊氏像

問2 系図中の ア ~ シ に入る適切な人名を次の中から1人ずつ選びなさい。

- ① 国氏 ② 義純 ③ 家氏 ④ 満兼 ⑤ 義輝 ⑥ 義詮
- ⑦ 義氏 ⑧ 義澄 ⑨ 持氏 ⑩ 義量 ⑪ 政知 ⑫ 義清
- ⑬ 義尚 ⑭ 義持 ⑮ 成氏 ⑯ 頼氏 ⑰ 義種 ⑱ 義勝

問3 次の文章①~⑫は、系図中の ア ~ シ いずれかの人物について説明したものである。それぞれの人物について説明した文章として適切なものを1つずつ選びなさい。

- ① 父の後を継いで鎌倉公方となり、南奥州の支配強化のため、弟の満貞、満直をそれぞれ奥羽に派遣し、稲村御所、篠川御所として支配させた。また、伊達氏の乱が起こると、上杉氏憲を派遣して鎮圧した。大内義弘が堺に拠って將軍打倒の兵をあげた際、義弘に呼応して出陣、上洛を企てたが、義弘の敗死と関東管領上杉憲定の説得で鎌倉に戻り、異心なき旨を誓い、將軍に服従した。

- ② 伊豆で生まれたが、上洛して天龍寺の塔頭に入った。将軍職を継承できる立場にはなかったが、管領細川政元のクーデターによって将軍が廃されたとき、将軍の跡目に嗣立されて還俗した。将軍就任後も実権はほとんど無く、政元が幕政を掌握する傀儡であったが、細川氏の内紛により政元が暗殺されると、翌年には周防に亡命していた前将軍が大内義興とともに上洛したため、京都を追われ、近江に逃亡。将軍位を剝奪された。
- ③ 父が将軍を辞したことにより、かわりに17歳で征夷大將軍となったが、父は将軍を辞して出家したとはいえ健在で、幕政の実権を掌握し続けたため、将軍職は有名無実であった。酒におぼれ、在職3年目に病死した。父もその3年後に死去するが、その際、後継者を定めていなかったため、つぎの将軍はくじ引きで選ばれることになった。
- ④ 永享の乱後、信濃に逃れていたらしいが、鎌倉公方になるべく鎌倉に帰り、幕府から許されて鎌倉府を再建した。権力の強化をはかるが、関東管領上杉憲忠と対立し、憲忠を自邸に誘い出して殺害。享徳の乱を引き起こす。以後、幕府・関東管領上杉氏と対立を続けるが、幕府方の今川範忠らに攻撃されると、鎌倉を逃れて下総の古河に拠った。以後、古河を本拠としたので、古河公方と呼ばれた。
- ⑤ 出生の前年に叔父が将軍継嗣と決まっていたが、母が将軍就任を求め、9歳で将軍となった。実権は父が握っていたが、後継者をめぐって大乱となり、管領細川勝元が後見した。乱後、寺社領の押領などを重ねる近江守護の六角高頼に対して追討軍を派遣し、みずからも出陣したが、六角氏は屈せず、近江の陣中で病死した。
- ⑥ 将軍の庶兄で、出家して天龍寺の塔頭に入っていたが、関東管領が謀殺されて享徳の乱が発生し、古河公方に対抗しうる鎌倉公方が要請されると、室町殿の命令で還俗して、鎌倉公方として関東に派遣された。しかし、関東の諸将に支持されなかったため、鎌倉に入部できず、伊豆の堀越にとどまり、堀越公方と呼ばれた。鎌倉公方ではあったが、実質的な支配は関東管領の上杉氏にゆだねられ、名目的な存在にすぎなかった。

- ⑦ 父の死後、鎌倉公方となったが、上杉禅秀の乱で一時鎌倉を逃れた。幕府の援助を得て乱を鎮め、鎌倉に戻ったものの、権力の専制化を強め、幕府とも衝突するようになる。幕府との協調を説く関東管領上杉憲実とも対立し、憲実打倒の軍を起こしたことで関東は内乱状態となった。幕府が憲実を援助し、関東に派兵すると、各地で敗れ、武蔵称名寺で謹慎の後、鎌倉の永安寺で自刃した。
- ⑧ 父が近江に亡命中、坂本で将軍に就任した。その後も、三好長慶に追われ、管領とともに京都から離脱したこともあるが、長慶の傀儡に甘んじることなく、将軍権威の復興を図り、上杉・武田・北条3氏の講和を斡旋するなど政治手腕を発揮した。しかし、長慶の死後、実権を掌握した松永久秀に襲われ、自刃した。
- ⑨ 征夷大將軍となった後も父が政務を執った。しかも父は弟の義嗣を愛したが、父が死ぬと、管領斯波義将らの支持を得てその地位を保った。父の独裁的な政権運営ではなく、管領ら宿老の合議を重んじたが、冊封・朝貢を嫌い、日明貿易を中断した。関東管領を辞した上杉氏憲(禅秀)が鎌倉公方と対立して乱を起こした際、禅秀が弟義嗣と結んだということで義嗣を捕らえて殺し、鎌倉公方に援兵を送って禅秀を討った。
- ⑩ 前将軍の母らの推挙で次期将軍に嗣立され、美濃より上洛した。第2次六角征伐や河内出陣を強行し、管領細川政元と対立する。河内出征中に政元のクーデターで将軍位を剥奪され、幽閉されたが、越中に脱出。のち周防に逃れ再起を図る。細川高国や大内義興の援助で将軍に復職したが、義興帰国後は前管領の高国と対立し、京都を出奔し、阿波で客死した。
- ⑪ 父が赤松氏に殺害されたので、宿老に擁立されて8歳で家督を継いだ。管領細川持之が輔佐し、赤松氏の討伐には成功したが、この幕府内部の抗争に乗じて京都とその周辺地域に蜂起した土一揆の要求に押されて徳政令を発布した。翌年元服し、征夷大將軍に補せられ、管領畠山持国の輔佐をうけたが、2年後、赤痢を病み10歳で没した。

- ⑫ 父の代理として一族を率いて鎌倉攻めに参加し、その後も鎌倉にとどまって、下向した叔父とともに鎌倉を足利氏の拠点とした。父の執事と叔父との間に不和が生じると上洛し、叔父にかわって政務をとろうとするが、対立は父と叔父の抗争に発展する。叔父を討つと、叔父の養子や南朝と京都の争奪戦を繰り返したが、父が死去すると、その後を継いで幕府の基礎を固めた。

3 江戸時代に書かれた書物についての各問いに答えなさい。

問1 次に掲げる短文(あ)～(き)は、それぞれ書物の内容を説明している。それぞれに当てはまる書名を①～⑮の中から1つ選びなさい。

- (あ) 紀伝体の歴史書で397巻からなる。水戸藩江戸藩邸内の編纂局において編纂された。^(a)
- (い) 経済政策論。重農主義的立場から武士の帰農、参勤交代の緩和などを主張し、幕政を強く批判した。
- (う) 作者はこの本が原因で赤穂に配流となった。「聖人とは何か」を説き、武士日用の道徳を主張した。儒教古典の朱子学的解釈を批判した。
- (え) 中国崇拜を排して日本主義を主張する。中国が自国を「中華」と呼ぶことに対し、表題に用いた日本名を考案した。
- (お) 神武天皇より後陽成天皇までを記した310巻の編年体の歴史書で、その編纂にあたっては、親子で取りくんでいる。父親の方は上野忍ヶ岡に家塾を開いた人物。^(b)
- (か) 「本朝天下の大勢九変して武家の代となり、武家の代また五変して当代に及ぶ」として歴史を説明する書。当代としての徳川政権の正統性を強調している。
- (き) 作者の自伝的著作。将軍の侍講として幕政に参画してから、引退までを記したもので、3巻からなる。

- (く) 『日本書紀』神代の巻について合理的解釈をくだし、「神とは人也」とした書で、中国史書との比較考証を多く用いた。
- (け) 將軍の命令で、当時の337家あった大名の系譜と伝記を収録した全13巻の書。^(c)
- (こ) 作者は古文辞学を始めた人で、参勤交代の弊害を打破し、武士土着論を説いたもの。將軍の諮問に答えて作成された幕政改革案である。^(d)
- (さ) 1729年に書かれた10巻の幕藩体制への改善策を示した書。
- (し) 1697年に、明の徐光啓に刺激をうけた作者によって書かれたもので、五穀、菜類、果樹などを10巻に分け、見聞と体験に基づいて記された。
- (す) 薬物の歴史や1362種の動・鉱・植物を独自に分類して解説したもので、『養生訓』の作者として知られる藩士の作。^(e)
- (せ) 博物学的薬物研究の大著。著者の生前362巻が完成し、後に8代將軍吉宗の命で、弟子により完成した1000巻からなる。^(f)
- (そ) 和算書として1627年に刊行された。割算、掛算を基礎とし、級数、体積、幾何図形までを平易な日常的例題で説く。

語群

- | | | |
|----------|----------|------------|
| ① 『大日本史』 | ② 『中朝事実』 | ③ 『本朝通鑑』 |
| ④ 『農業全書』 | ⑤ 『塵劫記』 | ⑥ 『古史通』 |
| ⑦ 『聖教要録』 | ⑧ 『政談』 | ⑨ 『折たく柴の記』 |
| ⑩ 『藩翰譜』 | ⑪ 『庶物類纂』 | ⑫ 『大学或問』 |
| ⑬ 『経済録』 | ⑭ 『読史余論』 | ⑮ 『大和本草』 |

問2 次に掲げる短文(1)～(4)は、問1のいずれかの書物からの引用である。その書物名を問1にある語群の①～⑮からそれぞれ1つ選びなさい。

- (1) 「今ノ世ノ諸侯ハ、大モ小モ、皆首ヲタレテ町人ニ無心ヲイヒ、江戸、京都、大坂、其外処々ノ富商ヲ憑デ、其統ヶ計ニテ世ヲ渡ル」
- (2) 「今重秀が議り申す所は、御料すべて四百万石、歳々に納めらるゝ所の金は凡ソ七十六、七万両余、此内、長崎の運上といふもの六万両、(中略)これら近江守申し行ひし所也。」
- (3) 「神皇正統記に、光孝より上つかたは一向上古也。万の例を勧ふるも、仁和より下つかたをぞ申める。五十六代清和幼主にて、外祖良房摂政す。是、外戚専権の始…」
- (4) 「其上昔ハ在々ニ殊ノ外銭払底ニテ、一切ノ物ヲ銭ニテハ買ハズ、皆米麦ニテ買タルコト、某田舎ニテ覚タル事也。近年ノ様子ヲ聞合スルニ、元禄ノ頃ヨリ田舎ヘモ銭行渡テ、銭ニテ物ヲ買コトニ成タリ。」

問3 下線部(a)について、その名前は何か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 弘道館 ② 明倫館 ③ 弘文館 ④ 時習館 ⑤ 彰考館

問4 下線部(b)について、共同執筆した子の名前を①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 林鶯峰 ② 山崎闇斎 ③ 野中兼山 ④ 伊藤仁斎
⑤ 木下順庵

問5 下線部(c)について、この書の作成を命じた将軍は誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 徳川綱吉 ② 徳川家宣 ③ 徳川家継 ④ 徳川吉宗
⑤ 徳川家重

問6 下線部(d)の将軍とは誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 徳川綱吉 ② 徳川家宣 ③ 徳川家継 ④ 徳川吉宗
⑤ 徳川家重

問7 下線部(e)について、この人物が仕えた藩を①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 福岡 ② 白杵 ③ 唐津 ④ 佐賀 ⑤ 萩

問8 下線部(f)について、この著者とは誰か。①～⑤の中から1つ選びなさい。

- ① 大蔵永常 ② 稲生若水 ③ 青木昆陽 ④ 石田梅岩
⑤ 宮崎安貞

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

明治期の代表的産業であった製糸や紡績の担い手は、その多くが女工と呼ばれる若い女性労働者であった。生糸の輸出額は、日露戦争前後で全輸出品のおおよそ(あ)%を占め、日本は世界一の輸出国となった。だが女工たちの労働環境は劣悪で、横山源之助の著書(ア)には、もっともあわれな職工は製糸工場の女工であると記されている。(イ)の雨宮製糸工場や大阪天満紡績工場ではストライキも起き、(い)年公布の工場法で改善がはかられたものの、必ずしも十分ではなかった。また大都市では、低所得者層の集まる貧民窟が社会問題化した。救世軍などの(ウ)系団体は、このような地区での救済事業にあたり、(エ)らの婦人矯風会とともに、(オ)にも取り組んだ。しかし昭和恐慌の折には、貧しさから娘を身売りする家が後を絶たなかった。

(う)年の小学校令改正で(カ)の授業料が廃止されたことなどにより、女子の就学率は飛躍的に向上した。しかし(キ)が定める、戸主を頂点とする^(a)制度のなかで女性は従属的な地位におかれ、家のために働くことが役割とされた。女子の中等教育機関である高等女学校は、教育のおもな目的を中流家庭にお

ける良妻賢母の育成におき、大正期に創刊した(ク)などの実用的な婦人雑誌もこれを後押しした。戦時期には(ケ)や隣組のような組織を通じて、多くの女性が(コ)の生活を支える主体ともなった。

他方、こうした社会的立場から女性を解放しようとする人々もいた。青鞥社をおこした平塚らいてう、(エ)年、平塚とともに(サ)を創設し、婦人参政権獲得に尽力した(シ)、(ス)に加わった社会主義者(セ)などは、各々の立場から、女性の解放と地位向上をめざして運動を展開した。戦後になって旧来の家制度は改められ、参政権も男女等しく与えられたが、公私ともに根強い社会通念や、(ソ)により家事・育児をひとりで行わなければならないことなどが、直接および間接的に女性の社会進出を阻んできた。(オ)年には男女雇用機会均等法が成立、その後の改正で雇用側への是正は進んだものの、依然としてさまざまな課題が指摘されている。

問1 空欄(あ)～(お)について次の問いに答えなさい。

(1) 空欄(あ)にあてはまる最も適当な数字を、次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 10 ② 30 ③ 50 ④ 60 ⑤ 80

(2) 空欄(い)～(お)にあてはまる年号を、次の中からそれぞれ1つずつ選んで記号で答えなさい。

- ① 1879 ② 1900 ③ 1907 ④ 1911 ⑤ 1916
⑥ 1920 ⑦ 1933 ⑧ 1940 ⑨ 1977 ⑩ 1980
⑪ 1985 ⑫ 1997

問2 空欄(ア)～(ソ)にあてはまる最も適当な語を、次の中からそれぞれ1つずつ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|-------------|-----------|----------|
| ① 諏訪 | ② 『女学雑誌』 | ③ 教派神道 |
| ④ 『日本之下層社会』 | ⑤ 矢島楫子 | ⑥ 林芙美子 |
| ⑦ 『女工哀史』 | ⑧ 山川菊栄 | ⑨ ベビーブーム |
| ⑩ 甲府 | ⑪ 福田英子 | ⑫ キリスト教 |
| ⑬ 中島俊子 | ⑭ 日蓮宗 | ⑮ 新婦人協会 |
| ⑯ 宮本百合子 | ⑰ 『職工事情』 | ⑱ 市川房枝 |
| ⑲ 廃娼運動 | ⑳ 八絃一字 | ㉑ 水平社 |
| ㉒ 新しい女 | ㉓ 新民法 | ㉔ 『婦人公論』 |
| ㉕ 友愛会 | ㉖ 赤瀬会 | ㉗ 『主婦之友』 |
| ㉘ 義務教育 | ㉙ 貧困家庭 | ㉚ 女学校 |
| ㉛ 旧民法 | ㉜ 大日本帝国憲法 | ㉝ 生活保護 |
| ㉞ 大日本婦人会 | ㉟ 銃後 | ㊱ 核家族化 |
| ㊲ バブル崩壊 | ㊳ 国体 | ㊴ 地方改良運動 |
| ㊵ 桐生 | | |

問3 下線部(a)～(c)について次の問いに答えなさい。

(1) 下線部(a)に関連して、説明の誤っているものを次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 家督とはすなわち財産のことで、通常は長男が相続した。
- ② 30歳未満の男、25歳未満の女は、婚姻に際して親の同意を必要とした。
- ③ 妻は、夫の許諾なしに財産をつかうことができなかった。
- ④ 家族の住む場所は戸主が定めた。
- ⑤ 父親がいる場合、子の親権は母親には認められなかった。

(2) 下線部(b)に関連して、明らかに説明の誤っているものを次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① 米は農家から強制的に供出させ、一般には米穀通帳で配給された。
- ② 隣組は国民の末端組織として、情報伝達や配給などを担うとともに、相互監視の役割を果たした。
- ③ 出兵した男性の代わりに、未婚の女性が女子挺身隊として勤労働員された。
- ④ 衣料品は切符制となり、国民服やモンペを着るよう統制がすすんだ。
- ⑤ 貯蓄・節約が奨励され、「七・七禁令」で七品目七種類のぜいたく品が販売禁止になった。

(3) 下線部(c)と最も関連の深い項目を次の中から1つ選んで記号で答えなさい。

- ① モータリゼーション ② 減反政策 ③ 母性保護論争
- ④ 住宅団地 ⑤ 石油ショック

問4 以下の問いに答えなさい。

(1) 次に示す(A)~(E)の5項目は、(あ)工場法、(い)労働基準法、(う)男女雇用機会均等法、のいずれかで定められた内容である。組み合わせとして正しいものを、①~⑤の中から1つ選んで記号で答えなさい。

(A) 募集、採用、配置、昇進に関する男女差別を禁止

(B) 15歳未満および女子の労働時間は1日12時間以下

(C) 賃金に関する男女差別を禁止

(D) 産前、産後の休業を保障

(E) 従業員15名以上の職場に適用

① (A) — い, (B) — あ, (C) — う, (D) — い, (E) — う

② (A) — う, (B) — あ, (C) — う, (D) — い, (E) — あ

③ (A) — う, (B) — あ, (C) — い, (D) — い, (E) — あ

④ (A) — い, (B) — あ, (C) — う, (D) — あ, (E) — あ

⑤ (A) — う, (B) — い, (C) — あ, (D) — う, (E) — あ

(2) 以下を読み、説明の内容が正しいものを1つ選んで記号で答えなさい。

① 与謝野晶子は、日清戦争に出兵した弟にむけた詩の中で「君死にたまふこと勿れ」とうたい、反戦的であるとの批判を受けた。

② 羽仁もと子は、報知新聞に入社して日本最初の女性記者となり、のちに夫とともに自由学園を設立した。

③ 伊藤野枝は、内縁の夫である幸徳秋水とともに無政府主義運動に奔走し、関東大震災の混乱のなかで甘粕正彦に殺害された。

④ 日系人ベアテ・シロタは、GHQによる憲法草案において、男女平等を規定した箇所を起草した。

⑤ 美空ひばりは、終戦後まもなく「リンゴの唄」「悲しき口笛」などのヒットで天才少女の名をほしいままにし、のち昭和歌謡界の女王といわれた。

